RPAについて

概要

- ○Robotic Process Automation(ロボットによる業務の自動化)の略、人間がパソコンで行っている作業を、プログラムによって自動的に処理する技術
- ○パソコントでの複数のシステムを横断した操作・作業をRPAが人の代わりに実行することが可能
- ○AIとは異なり、自ら判断・学習することはできず、決められたプログラム通りにしか作動しない

1 RPAの活用に適する業務

- 定型的な作業(プログラムとして設定することが可能な作業)、入力、照合、メール等
- 想定される活用例
 - ・入力: Excelに入力されたデータの業務基幹システムへの転記
 - ・照合: 別ファイルに存在している情報を照合し、正誤を判定
 - ・メール:特定の条件に合致する職員等にリマインドメールを自動送信 (例,依頼物の未提出者など)

/ 2 メリット

- 生産性の向上
- 品質の向上(ヒューマンエラーの削減)
- 労働時間の削減
- 人材は高付加価値なコア業務へ集中

定型業務の効率化に大きく貢献

/ 3 ソフトウェア

- 導入にあたっては、端末やサーバーに専用のソフトウェアをインストールし、 これに処理手順(シナリオ)をプログラムし、起動させる。
- RPAのソフトウェアは多数あり、大きくはデスクトップ型とサーバー型に分かれる。

デスクトップ型

<端末にインストールするタイプ>

Win Actor(NTTデータ社製) Ui Path (Ui Path社製)

サーバー型

<サーバにインストールするタイプ>

Biz Robo! (RPAテクノロジーズ社製)

Blue Prism (Blue Prism社製)

🖊4 導入イメージ

例:調査回答の集計



RPA





判断を要さない作業はRPAで自動処理。職員はプロセス全体を俯瞰、管理し、分析など考える業務に注力